

平成 28 年度 創邦 21 事業報告

1 会議の開催

(イ) 総会の開催

平成 28 年 7 月 11 日 午後 2 時より 定時総会開催 於 CAT オフィス

(ロ) 例会の開催

平成 28 年 4 月 7 日 17 時より	第 158 回例会	於 CAT オフィス
〃 6 月 6 日 17 時より	第 159 回例会	於 CAT オフィス
〃 7 月 11 日 14 時 30 分より	第 160 回例会	於 CAT オフィス
〃 8 月 22 日 14 時より	第 161 回例会	於 CAT オフィス
〃 9 月 14 日 10 時 30 分より	第 162 回例会	於 CAT オフィス
〃 10 月 3 日 10 時 30 分より	第 163 回例会	於 CAT オフィス
〃 12 月 27 日 11 時より	第 164 回例会	於 CAT オフィス
平成 29 年 2 月 3 日 12 時より	第 165 回例会	於 CAT オフィス
〃 3 月 13 日 16 時より	第 166 回例会	於 CAT オフィス

2 作品演奏会の開催

第 14 回作品演奏会

主催：創邦 21

日時：平成 28 年 11 月 8 日

18 時開場 18 時 30 分開演

場所：紀尾井小ホール(東京都千代田区)

平成 28 年度 (第 71 回) 文化庁芸術祭参加公演

制作協力：(株) シーエイティプロデュース

助成：芸術文化振興基金

アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

公益財団法人 新日鉄住金文化財団

曲目：『天泣』(米川敏子作曲)

『蟬丸 二題』(金子泰作詞／福原徹・松永忠一郎作曲)

『異聞石橋』(金子泰作詞／今藤政貴・今藤政太郎・杵屋浄貢作曲／
藤舎清之作調)

『魔愚魔』(金子泰作詞／杵屋巳太郎作曲／藤舎呂英作調)

『月夜』(島崎藤村詩／今藤美治郎作曲)

『顔 (おもて)』(金子泰作詞／今藤長龍郎・清元栄吉作曲)

3 公開講座の開催

第7回公開講座「創作のキモ」

主催：創邦 21

日時：平成 28 年 6 月 22 日 18 時 30 分開始

場所：原宿・アスタディオ

入場料：一般 2000 円、創作を志す方 1000 円、学生 1000 円、学生で創作を志している方 500 円

内容：「構想と配置の関係」

I 部— “s i m p l i z e”

「夏のおもいで・冬のできごと」（作詞・作曲 今藤政貴）

講師：今藤政貴 ききて：金子泰

II 部—演奏者をイメージした曲づくり

「女を論ず」（詩 佐藤春夫／作曲 今藤長龍郎）

講師：今藤長龍郎 ききて：米川敏子

4 創邦 21 ホームページの運営

第 14 回演奏会に向けた創作活動・準備状況をトップページに順次掲載

アーカイブとして「公演記録」を更新

同人の執筆したエッセイ、レポート等の掲載

同人による同人インタビュー「創邦 11 面相」の連載

「きまぐれな今日の一曲」の随時更新

ブログの更新

5 作品演奏会準備

平成 28 年 11 月 8 日開催の第 14 回創邦 21 作品演奏会へ向けての諸準備

平成 29 年 11 月 8 日開催予定の第 15 回創邦 21 作品演奏会へ向けての諸準備

6 同人の退会

平成 28 年度末をもって、杵屋巳太郎同人が退会。

【総括】

1 平成 28 年 7 月 11 日に定時総会、また同年 4 月 7 日の第 158 回から翌 29 年 3 月 13 日の第 166 回まで計 9 回の例会を行った。

例会では、158 回から 163 回は主に第 14 回作品演奏会について、164 回以降は次回演奏会に向けての話し合いがなされた。164 回に第 14 回演奏会の反省と総括を行い、それを踏まえて演奏会開催へ準備を進めている。

2 平成 28 年 11 月 8 日に紀尾井小ホールにて、創邦 21 第 14 回作品演奏会を開催した。

前回の作品演奏会より文化庁芸術祭参加を志向しており、今回初参加となった。結果、残念ながら入賞は叶わなかったが、当公演の良かった点、改善すべき点、すべてこの芸術祭参加ということ、とくに制限時間があることに起因していると評価する。

というのも、私ども創邦 21 は同人が思う存分自由に創作と発表をする場として在るように、創作行為に制限を設けないようにこれまで活動してきたのだが、今公演では芸術祭参加ということで、各作品は新作であっても冗長にならないよう練り上げられ、これまでになく求心的な、密度の濃い引き締まった会になったと実感している。幕間もまた延びないように工夫した結果、当日はスムーズで且つ引き締まった進行が実現できた。

しかしながら、そのように全体の時間を意識するあまり、制作段階や演奏において作品の尺をあまり伸ばさないようにと、少し加減をしてしまったことも事実である。これは、そもそも 6 番立てという内容が多すぎたからだと反省する。この経験を踏まえ、次回演奏会は 5 曲までに留め、作品世界をしっかりと展開できるようにしたい。

集客面では、前回に比べてご招待の人数が少なかった一方で総計では上回っており、集客努力が徐々に実ってきているようではあるが、次回演奏会に向けて、各自が真剣に集客に取り組むだけでなく、宣伝面などで何か対策も講じたい。

そのほか、これからの課題として、邦楽における詞章の重要性に対して団体内での詞章担当者（文芸部）の数が少ないことを克服したい。文芸部の増員ももちろんであるが、詞章となりうる言葉との出会いを求めて、同人が普段からそのような目で詩歌や文章を探すことも、もっと行うべきである。

創邦 21 の結成当初はそうやって詩歌の中から邦楽作品にしたいものを発掘し、作ってきた曲を聴き合い、意見を言い合って力を蓄えてきた。今回芸術祭に参加はしたが入賞できなかったことをひとつの契機として、当時のあの創作の精神に立ち返り、平成 29 年の結成 20 周年を迎えたい。

3 公開講座「創作のキモ」は今回もほぼ満員の盛況をみせた。120 分の枠の中で二部制にしてそれぞれ講師を変え解説をする形式は、持ち時間不足になるきらいがあるとの反省が挙げられた。そうした形式、当講座の目指す方向、具体的な内容等々を不断に吟味し、次回以降よりよいものとしていきたい。

4 創邦 21 ホームページを継続的に運営した。第 14 回演奏会の告知をトップページに掲載し、それにブログも活用して内容を紹介した。演奏会後には公演記録を掲載し、同人執筆のエッセイやレポートは随時掲載して、それぞれアーカイブとして、読み物として、ホームページを充実させた。平成 27 年 1 月より始まった同人による同人インタビュー「創邦 11 面相」の連載は、現在、インタビュアーたちの回を残すだけとなった。また同じく「ヨミモノ」内ではエッセイ 2 本、レポート 1 本が掲載された。ブログも毎月 2 回程度更新し、計 20 本掲載。同人の活動、同人の生の言葉を発信することに努めたが、もう少し頻度が上がれば尚良しと思われる。

5 第 15 回作品演奏会を紀尾井小ホールで開催することを決定し、準備を進めている。前回以上のものとしたい。

6 歌舞伎公演への出演等で多忙なため、今年度末をもって、杵屋巳太郎氏が退会された。

以上